

年間授業計画（シラバス）

教科・科目	保健体育(体育)		単位数	2単位	履修学年	1年
目標	各種の運動の合理的な実践を通じて、運動の技能を高め、運動の喜びや楽しさを深く味わうことができるようになるとともに、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。					
使用教材	「現代 保健体育」(大修館書店)					
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(技能・表現)	(知識・理解)		
	各種の運動の本質に触れようと他者とのかかわりも大切にしながら意欲的に自ら取り組むことができているか。	自らの能力と仲間の能力を理解し、運動の特性に応じた課題解決を目指して活動の仕方を考え、工夫しているか。	運動の技能を高めるための合理的な実践を行っているか。	運動技能の構造と体力を高めるために基礎的な事項を理解し、知識を身につけているか。		
評価方法	毎回の授業の中で、欠席することなく、意欲的に授業の取り組み、自らと仲間を大切にしながらより高い個人技術や集団としての到達目標を達成するために考えて工夫しているか。1年間の評定は1～3学期の年間を通じて総合的に判断する。					
学期	学習内容			学習のねらい		
1	①集団行動 ②スポーツテスト(陸上競技) ③体づくり運動 ④体育理論(体ほぐしの意義と体力の高め方) ⑤球技(ソフトボール・バレーボール)			<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、夜間の授業となるので、基本的には体育館を利用する。 ・集団行動において、規律や協調性を身につけさせる。 ・スポーツテストは陸上競技を兼ねる。 ・スポーツテストの一部とソフトボールはグラウンドを使用する。 ・体づくり運動と体育理論は運動の意義と体力の向上の方法を理解する。 ・ソフトボールとバレーボールはゲームをしながら個人の運動能力も評価する。 		
2	①ダンス ②大縄跳び ③器械運動 ④球技(バドミントン・バスケットボール)			<ul style="list-style-type: none"> ・9月の体育祭の練習を兼ねて、大縄跳びとダンスを行う。 ・器械運動は種目内選択(跳び箱・マット・平均台)を行い、各個人ができる技を習得・披露する。 ・バスケットボールは個人技能(フリースロー・ドリブルシュート)の習得を行い、評価する。 ・バドミントンはシングルスを行い、評価する。 		
3	①球技(卓球・サッカー)			<ul style="list-style-type: none"> ・卓球は、シングルスを行い、評価する。 ・サッカーは室内で行う。(卓球との選択になる) 		
学習上の留意点	運動の技能の到達度は、絶対値だけでなく、各個人の成果の伸び率も考慮する。また、仲間とのかかわり方や毎回の授業に取り組む態度(出席状況を含む)も考慮する。					